

TOKYO 書店人

東京組合報

2019 VOL.237

変革と波乱の予感の中で・・・

いよいよ変革と波乱含みの中で新しい年がスタートしました。4月30日の天皇陛下退位、5月1日の新天皇の即位に伴い新元号に改元されます。新天皇の即位日となる5月1日を今年限りの祝日とし、前後の4月30日と5月2日も休日となり、4月27日(土)～5月6日(振替休日)まで10連休になります。また、新天皇の即位を国内外に宣言する「即位礼正殿の儀」も10月22日に行われ、祝日となります。こうした事態を受けて、出版業界においてこの間の雑誌の発売、書籍新刊の発売等はどういう形をとるのか。また、休日が月末月初をまたぐ事になり、官公庁や金融機関の対応はどうなるのか、大いに気になるところであり混乱は避けられない状況にあると思われます。



平成30年度 書店経営研修会

一方では、リーマンショック級の出来事がない限り、10月には消費税が8%から10%に引き上げられます。軽減税率の適用も酒類を除く飲食料品や新聞に限定され、書籍、雑誌への適用は見

送りになり引き続き検討事項となりました。飲食料品への適用も外食やイートインとテイクアウトでは税率が異なっており、小売店頭での混乱は避けられない状況が考えられます。消費増税に伴い、諸外国(韓国約89%、中国約60%など)に比べて約18%と我が国のキャッシュレス決済の比率が低いことから、拡大策としてキャッシュレス決済に対して5%の還元案も浮上してきています。加えてカード類を持たない高齢者や低所得者対策として、プレミアム商品券の発行も検討されているなどさらに混乱に拍車をかける事態も想定されます。前回の8%への増税直後の2014年4～6月期は、駆け込み需要があった1～3月期より個人消費が14兆円(約5%弱)減少し、駆け込み前の水準にもどるのに3年以上かかっています。今回も増税後の消費の落ち込みが大いに懸念されます。

9月にはラグビーのワールドカップも開催され、また来年には東京オリンピックが開催されるなど、外国人観光客による消費の拡大も期待されるなど明るい話題もあります。マイナス要素を最小限に抑え、いよいよ書店の底力を発揮し、荒波を乗り切りたいと思います。組合員全員の力を結集して頑張りたいと思います。

主な内容

- | | | | |
|---------------------------|-----|-------------------------------|-------|
| ●年頭所感 船坂理事長 | 1 | ●神保町ブックフェスティバル | 11 |
| ●報告・方針 平成31年東京組合の活動 | 2～4 | ●支部活動 江東・江戸川支部、目黒・世田谷支部 | 12 |
| 11月1日は「本の日」 | 4 | ●青年部の活動 青年部の活動と未来 | 13 |
| ●平成30年度 書店経営研修会 | 6～9 | ●理事会議事録 | 14～16 |
| ●書店大商談会 児童書分科会 | 10 | ●委員会発信、編集室 | 16 |

お祝い、お礼・お返し、ご挨拶に、
「書店人」の贈りもの。



図書カードNEXTは「本屋さんへの招待状」です。

図書カードは、書籍・雑誌の増売効果を促し、出版界に還元される「本の贈りもの」。
出版界ならではの、販促&ノベルティツールです。会社でも、プライベートでも、贈りもの
の機会はきっとあるはず。日頃のギフトとしてご活用いただき、書店店頭にお客様を
誘いましょう！



日本図書普及株式会社 〒162-0843 東京都新宿区市谷田町2-41-3 TEL 03-3267-2311 FAX 03-3267-2514

書店の利益が取れる年に

理事長 船坂 良雄



新年あけましておめでとございます。

旧年中は、組合員の皆様による増売協力並びに支部活動にご

協力頂きまして誠にありがとうございました。

昨年平成三十年は、台風や大地震により、全国で多くの方がお亡くなりになられ、未だに避難生活を強いられている方がいらつしやいます。被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早く普段通りの生活に戻るよう願っております。

さて、私ども書店業界で一番の問題は、軽減税率であります。日書連理事会に財務省の方が見えた際に「軽減税率は一切認めない」等の説明があり、組合員より「貴方は何を話しに来たのか、出来ませんということを言いに来たのか」等々厳しい声が上がりました。出版物の軽減税率の動向が気になります。

現在、書店店頭での売上は日に日に落ち続けており回復の兆しは一向に見えません。

現状を回復するには、書店・取次・出版社が三位一体となり、業界の改革を進めること以

外に方法は無いと思います。書店は、取次から送られてきた本を、お客様にアピールするためディスプレイやコーナーを企画し如何に多く販売するかが重要になります。

更に、問題となっているのは、新刊点数が大変多く、送品されてきた本が棚に並べきれないことです。また、送品数が多いために請求額が多額となり、支払いの資金繰りに大変困つています。以前、売上が伸びている時には資金繰りに困らなかつたのですが、今は違います。この問題は、今年の提案として考えています。

売上減少に繋がるもう一つの問題は、アマゾン等ネット販売が挙げられます。お膝元のアメリカでは、ネット販売の台頭により小売業の百貨店シアーズ、玩具のトイザラス、書店のボードーズなどが経営破たんしています。

そのような中、日本では小売業のドンキホーテ、ユニクロなどが業績を伸ばしています。なぜか、それは店内の豊富な品揃とお客様が自分で品物を選べる楽しさがあるからです。

小売業としての書店の強みを発揮するには、来店していただける仕掛け・工夫等を充実させ本を選ぶ楽しさを演出することが大切です。

昨年から万引き問題にも取り組んでいますが、売上が落ちている中、万引きは増えており、一人が盗む金額も高額になっています。

私もが参加しております「全国万引犯罪防止機構」にインターネット会社も会員になりましたので、今後は何でも買い取り、出品点数を増やすことは少なくなると思います。

万引き問題は、出版界全体の問題として取り組んでおり、平成二十九年九月に「万引防止出版対策本部」が設立され、その一環として「渋谷書店万引対策プロジェクト」が出来ました。これは、渋谷の書店同士が協力して万引きをした者の情報を共有し注意を喚起することを目的とした顔認証システムの導入です。このプロジェクトを立ち上げるには、個人情報・プライバシー問題等のハードルが非常に高く、多くの時間を費やしましたが今期よりスタートできる予定です。

最後に、「全国書店経営実態調査」の結果を踏まえ、業界三者から人選された方々をメンバーとした「書店環境改善実務者会議」を昨年六月に発足させました。書店経営が、今後もしも成り立つていくにはどうしたら良いかを主なテーマに話し合いを進めています。

東京都書店商業組合の皆様の支えがあつてこそ前に進むことが出来ます。

どうぞ今年も宜しくお願い致します。

報告

平成31年

東京組合の活動

方針

共同受注委員会報告

副理事長 柴崎 繁

今年度大きな話題となった図書館流通センター（以後TRC）の取引条件改定問題は、図書館入業務が地元支部と図書館との共同事業であることを認識して、支部が真剣に取り

組まなくてはならない問題であった。にもかかわらず、一部の地元老舗書店が単独で図書館入業務を受注しているのをよしとはしない。さりとて、

図書館との話し合いを模索している内に、図書館の内情を熟知したTRCが手助けとして登場。絶大な信頼を得て、モンスターとなり図書館の業務改善を提案、図書館職員の待遇改善までも提案した。図書館行政になくてはならない存在となり、入札条件の実権をにぎり、他の参入者を排斥してきたことは広く知られているところである。

しかし、地方自治体の税収が減となり図書館予算も直撃し削減となった。その余波は、TRCの図書館納入業務にも大きく影響が及び、業務

提携していた全国の書店組合との取引条件改定問題に発展、一部の書店組合は折り合いがつかず業務提携を解消したとの報告もされている。その他の書店組合でも運営資金の不足のため組合事業活動に支障を来しているのを耳にしている。

以前から何度となく提案しているが、東京都書店商業組合は、支部で図書館業務の内「納品」「装備」「データ管理」等で受注可能な業務を提案して図書館との連携を早急に模索することが大事である。

東京都及び各区の行政、議会においても「最寄りの街に書店があること」が、「都民へ欠くことの出来ない重要な政策案件」であり、子どもの知育と高齢者に安価な書物を提供し知的好奇心の世界へ誘ったり、行動範囲の限られた住民にとって「最寄りに憩意な街の書店があること」が、毎日の暮らしを豊かにするというのは火を見るよりも明らかである。

他方、書店経営は底が見えない状態が20余年も続き、明日シャッターが上がらない店舗が生ずる現実、地元住民の暮らしにも大きな負の遺

産となつてのしかかる。そのような中で共同受注委員会は、一軒でも多くの組合員が店舗を継続してもらえように、地元図書館への納入業務を通じて利益が得られるよう願っている。そのために東京組合として、長年の蓄積してきたノウハウを開示し相談に乗り必要とあれば共同で、図書館との事業提携に向けて英知を傾けていきたいと思う。

各支部に最低一館、組合員の手で運営出来る図書館を目指そう！！

組織の再編に期待

副理事長 本間 守世

「毎週のように全国の街の本屋が閉店しています。」二十数年前から、書店の現状を新聞などが記事にするとき、その枕詞のように使われてきたフレーズです。かつて、街の本屋は毎日の売上の八割近くが雑誌の売上であり、一冊の雑誌を配達し、店頭でもその一冊を大切に販売してきました。しかし、全国のコンビニで雑誌の販売が始まり、書店にとって生命線ともいえる週刊誌の売上が激減しました。雑誌の売上に依存していた街の本屋にとって大変な時代になってしまいました。雑誌の売上が

減少すれば、他の仕入の比率が上がリ運転資金が枯渇し、閉店の道しかありません。永い間、地元の書店として頑張ってきた仲間の書店は一軒ずつやめていきました。そして、この二十年間で全国の書店は、一万店消失しました。

雑誌の売上の低迷は、今も続いています。今日も休刊の記事がありました。これって当然ですよね。街の本屋の毎日の配達に対して、相応の対価も払わず無視してきたのです。自業自得です。でも、後れ馳せながら、心ある出版社が動き出してくれました。配達や定期雑誌の取り置きに対し、バックマージンを支払う提案がありました。現在、日書連で書店のマージン30%をめざした「書店環境改善実務者会議」が立ち上がり、検討が続けられています。書店組合以外のメンバーの皆様がどういう危機感を抱き今後どうしていきたいのか、そして何ができるのか、本気で検討されることを期待しています。

書店組合への加入率は、全書店の約三割弱です。組合未加入の大型書店は、書店数の大半を占め、総坪数でも総売上においても、書店業界をリードする立場にあると思っています。本屋大賞等の大きな機動力となっていることは、業界の常識となつ



ています。書店組合には、かつてのような大型書店の存在を敵視する勢力はありません。三十数年前、有隣堂の松信会長が日書連を導いて下さいました。東京組合では、数年前から大手書店の皆様の特任理事として、組合運営にご尽力頂いています。書店組合は、唯一書店業界を代表する組織です。街の本屋でも、大型書店でも同じ書店として共有できる未来像はあると思います。書店の将来を考える時は、今です。この大変な時代に、皆様の力が本当に必要です。

組織委員会の矢幡委員長は、未加入大型チェーン店舗が負担少なく組合加入できる方策を検討しています。皆様のご意見を期待しています。

書籍等の増売は、出版社、取次主導の○○会等の結社やチェーン書店の独自の企画に依存され、大きな成果を挙げています。事業・増売委員会の井之上委員長は、東京組合三〇〇店舗を一つにまとめ強力な増売組織を創り上げようと努力しています。

これからの書店組合をリードするであろう、矢幡、井之上両委員長です。どうぞ、両委員長へのご協力を心からお願ひ致します。



書店業界を覆う閉塞感を打開するには

副理事長 小林 洋

昨年の上半期の実績(1月～6月)をみると、出版物の販売実績は前年同期比8・0%減の6,702億円、書籍が3・6%減の3,810億円に対して雑誌は13・1%減の2,892億円と大きく売上を落としています。書籍では文芸、学参など前年大きく伸びたジャンルが落ち込んだが、児童書が前年並みの水準を維持し、一般教養書も好調に推移しました。一方雑誌では、月刊誌が13・6%減、週刊誌が10・7%減、ムックが約16%減、コミックスが約15%減とムック、コミックスの落ち込みが目立っています。コミックスは返品率の上昇も顕著で、漫画村などの違法サイト、LINEマンガなどの定額読み放題サービスによる既刊本の不振が際立つ結果となっています。中小書店の売上の柱である雑誌、コミックスの2桁以上のマインナスは書店経営を困難にし、さらに苦しい状況に追い込まれています。こうした厳しい現実が書店業界全体に閉塞感に繋がり、未来に希望が持てない状況に陥っています。こうした中、今後も書店を継続して行

くための有効な方策はあるのか、生き残りをかけた模索が続いています。

日書連では、業界三者で構成する「書店環境改善実務者会議」を主導し、粗利30%以上の実現に向けて出版社、取次会社との協議を重ねています。また、11月1日の「本の日」に合わせて「本屋へ行こう!キャンペーン」を実施、全国の書店店頭でのフェアやイベントで来店客に「本の日」をアピールし、図書カードNEX T ネットギフトが抽選で当たるプレゼントキャンペーンによる来店促進を行いました。東京組合でも恒例の読者謝恩図書カードの発行・販売、全員参加型の増売運動などにより、個店の底上げにつながるような提案を行っています。今年は何とか業界を覆っている閉塞感を打破し、売上の減少に歯止めがかけられるように頑張ってください。

指導・調査委員会は、渡部委員長を中心に「TOKYO書店人」の年2回の発行及び月報のFAX配信により、迅速で有益な情報を発信して行きます。また、懸案であったホームページもリニューアルが完了し、新たな形態での閲覧が可能になっていますので、積極的な活用をお願いします。厚生・倫理委員会は、渡部委員長のもと福利厚生事業、互助会

の運営、保険代理店業務、諮問図書への出席などを行っています。諸般の事情により新年懇親会の開催は中止となりましたが、別の形で会員相互の親睦が図れるような催しを企画できたらと思っています。今年も皆様方のご協力をお願いします。



組合財政の現状と今後について

財務委員 渡部 満

すでに総代会などで説明し、お知らせしていますが、組合の財政状況は年々悪化しており、現在はいきわめて厳しい状態です。

その原因としては、第一に、組合員数の減少により、賦課金収入が減少していることです。第二に、それと連動して購買事業(NHKテキスト、都政刊行物、ポリ袋等包装資材の売上など)の収益が減少していることです。それに加えて、近年利益を出してきた電子サイト手数料収入がなくなったことが考えられます。

(収益の減少)

このような事態への対応策として、読者謝恩図書カードの販売で収益をあげるべく、協賛出版社の数を増やし、販売枚数を増やしたことが、また、共同受注事業の本部納入手数料の料



率改定を実施したこと、事務局職員の削減を断行したこと、会館の駐車場を賃貸したことなどによって多少でも収益が増える様にしてきました。(収益の増大と経費の削減)

おかげさまで、組合員の皆さまのご理解とご協力によって、多少の収支バランスを保つことができ、何とか、現在持ちこたえております。

今後、更なる収益の減少が見込まれる反面、書店会館の老朽化による建物の維持管理費用が多額となること、借入金返済額が高額で負担となっており、今後の組合財政は、きわめて厳しくなると予測されます。

事務局職員の削減は、業務の過重負担を招いていますし、そのために今年度は東京組合の新年懇親会を中止せざるを得なくなったことは、記憶に新しいところです。建物も、老朽化したエレベーターの維持には、機器の全面改修を要請されていますが、現状では対応できません。(このままですとエレベーターは間もなく使用できなくなります)

事務局では、一層の経費削減に努めています。限界があります。また、組織委員会などで、組合員の加入促進のために等級の見直し作業なども進めています。成案を得てい

ません。

総代会前の臨時理事会で決算予算の審議時、賃貸室の増加や共同受注事業での本部納入手数料の料率再改定などが提案されますが、会館建物のリニューアルや脱退者の増加を防ぐ施策が伴わない現状において、実

11月1日は「本の日」

「本の日」実行委員会 プロジェクトメンバー 井之上 健浩

2018年11月1日、昨年の記念日制定後、第1回目の「本の日」を迎えました。「本の日」について少しお話しします。

もともと「本の日」は、出版市場が縮小し書店の数も減少している厳しい業界にあつて、私たちができることは何かと模索する中で「書店にもう一度足を向けてもらいたい」「インターネットでは味わえない書店の魅力を伝えたい」という想いを実現するために記念日として制定したものです。

「本の日」実行委員会を設立するにあたり、船坂良雄設立発起人代表をはじめ、全国の名だたる書店代表者の皆様に発起人をお引き受けいただきました。実行委員、プロジェクトメンバーにも、大勢の書店・書店会の方が参加してくださいました。

行が困難です。

組合員皆さんが加入しておられる組合であり、皆さんの立場の擁護と利益の促進こそが組合の課題です。是非知恵と支援を賜りますようお願いいたします。

「本の日」実行委員会の設立趣旨は、①11月1日の「本の日」の制定を受け、その日を中心に、全国の書店へ足を運んでいただく契機となるよう、書店の現状や存在意義の周知を図るため、②「本の日」実行委員会を設立する。③「本の日」実行委員会は、全国の書店・書店会で構成し、一部の書店・書店会に限定せず、設立後も幅広く参加を呼び掛ける。④書店の来客・販売促進に寄与する主催事業を手掛ける。⑤出版業界等、全国の書店で展開されるよう、普及活動に努める。⑥恒例行事として広く認知され

る。⑦恒例行事として広く認知される。⑧恒例行事として広く認知される。⑨恒例行事として広く認知される。⑩恒例行事として広く認知される。

定着することを目指す。以上のような趣旨があります。また、キャンペーン事業展開期間は、11月1日「本の日」を中心に10月1日から11月30日までの、前後1か月としました。具体的には、「作家による一日店長」「図書カードプレゼントキャンペーン」等を企画しました。「書店に来たら楽しいことがある!」「また行きたい!」と思ってもらえる企画を考えました。

しかし、これだけではお客様を満足させることは絶対不可能です。お客様に満足していただくためには、結局のところそれぞれの書店が考えて行動するしかありません。今回の「本の日」に際して、「自店で行えることは何だろう」「こんなことをやってみたら面白いんじゃないか」と考えて実行した書店はこれからは生き残るはず。逆に「何をやらなければならないのか」「忙しくてこんなことやったられない」と感じて何もやらなかった書店はこの先厳しいでしょう。

書店を取り巻く環境は、これからもますます厳しくなります。自分の書店を守るため、発展させていくためには、「誰かに何かをやってもらおう」のではなく「自ら考え実行する」ことが大事だということを改めて実感させられた「本の日」でした。

遂に

文庫

「居眠り磐音〈決定版〉」 シリーズ刊行開始!



●2月刊行!

『陽炎ノ辻 居眠り磐音(一)』

●3月刊予定

『寒雷ノ坂 居眠り磐音(二)』

『花芒ノ海 居眠り磐音(三)』

続刊も

毎月刊行致します!

原作映画「居眠り磐音」

2019年5月17日(金)ロードショー

主演:松坂桃李

全てを忘れていく母と、残された息子が抱える
「記憶」の物語

『百花』川村元気

❖ 単行本 4月刊行予定 ❖



文藝春秋

書店における児童書の棚作り

書店会館会議室
出席者数 35名

講師 こぐま社 前社長 吉井康文氏

本当に児童書は売れているのか

1. 現在何が売れているのか



右肩下がりの出版業界において売上が平均的に維持されているのが児童書だと言われている。果たしてその実態はどうか。

ここ数年、書籍全体の売上ランキングに顔を出すような話題性の高い児童書が増えている。「ハリーポッター呪いの子」(静山社2016)「おしりたんていシリーズ」(ポプラ社2012)テレビ化2018)「ざんねんないきもの事典」(高橋書店2016)「続」2017「続々」2018)「せつない動物図鑑」(ダイヤモンド社2017)「わけあって絶滅しました」(ダイヤモンド社2018)など。

知育絵本と呼ばれるものやお勉強ものと言われる、即効性を期待されるものが売れている。その延長で図鑑「NEO」(小学館)、学習漫画「日

本の歴史」(小学館 KADOKAWA 集英社)も売上を確保している。また2009年の角川つばさ文庫、2011年の集英社みらい文庫の参入で、児童文庫も堅調である。「バケモノの子」(角川つばさ文庫2015)「君の名は」(角川つばさ文庫2016)そして10数年前からあかちゃん絵本は好調を維持している。

児童書といえば原則的にロングセラーである。今までも例外はいくつかあつて、「ウォーリーをさがせ!」シリーズ(フレール館1987)、「葉っぱのフレディ」(童話屋1988)、「ハリーポッター」シリーズ(静山社1999)などがベストセラーにはなっているが、いずれも未就学児が読むようなものではない。ここが児童書、特に絵本の難しさであるが、絵本を評価するのが子どもという点である。評価がでるまでに時間がかかるのである。

児童書の売上の多くの部分を支えてきたのが、このロングセラー絵本である。

例えば2017年の児童書売れ行き良好書(創作絵本・知育絵本)を見ると上位15点の中で2015、2017年に出版された絵本は4点に過ぎない。

ロングセラー絵本の販売状況を、いくつかの児童書版元に聞いてみたが、いずれも厳しいという答えであった。現在の状況は、縮小されたロングセラーをベストセラーのような話題本がカバーしていると考えられる。ある意味、小さな児童書バブル現象である。そうになると、どうしても泡の部分だけに目を奪われがちで、その下に流れている水にまで目が届かない。泡があるうちはいいが、バブルが消えた時に、汚染された水だけが残る。

2. 児童書と他のジャンルとの境目

以前より児童書が多様化している。癒しをテーマにした大人のため絵本も多く出版されている。

1999年に日本で「ハリーポッター」が翻訳されて以来、それまで海外文学のジャンルに含まれていたものや、創元推理文庫、ハヤカワ文庫のものなどが、ファンタジーものとして児童書に並べられていった。

最近、夏目漱石、芥川龍之介、太宰治などの日本文学や宮部みゆきの

児童文庫化が増えている。コミックでのヒット作「キヤプテン翼」「ちび丸ちゃん」「ONE PIECE(ワンピース)」などの児童文庫化も目立つ。マガジンハウスの「漫画君たちはどう生きるか」はコミック? 文芸書? 同書のソフトカバー版は? ポプラポケット文庫、岩波文庫は? 「うんこ漢字ドリル」(文響社)は学参だ内容のものが増えている。児童書と呼ばれる範囲が広がっているが、他のジャンルとの境界線が曖昧である。児童書の売上は、取次のジャンル分けを基準にしているが、書店の実態と合っていない部分もあるのでないか。

3. 児童書への参入

出版界には昔から柳の下に何匹もどじょうがいると言われているが、好調な児童書分野への新規参入も相応なものである。角川・集英社の児童文庫参入は先ほど述べたが。角川は絵本の出版もこの一年盛んだ。高橋書店、飛鳥新社、ダイヤモンド社、河出書房新社など他ジャンル出版社が児童書を扱う。

4. 児童書新刊発行点数

児童書の出版点数はかなり多い。

特に絵本は、月平均150点に及ぶ。キャラクター絵本、アニメ絵本、回転塔用絵本。ボードブックなども含まれるにしても店頭で紹介しきれない。書店には配本されず、学校図書館向けに作られた作品も多数あると思われる。

児童書の売上金額は、2017年が864億、他のジャンルから比べると堅調と言える。出版物全体の売上が1996年の2兆6564億から2017年に1兆3701億に半減したことを考えると、児童書に目が向けられる理由もわかる。

5. 少子化の問題

児童書の売上と少子化の問題は、児童書出版界では危機感が強い。少子化によって確かに一人に掛かる養育費は高くなっているだろう。以前は、親、祖父母の6つのポケットと考えられてきたが、そこに叔父叔母などが含まれ8つとも10とも言われるようになった。ただしそれが書籍に充てられるかどうかは疑問ではある。

これまでの児童書における 読書推進運動

1. 朝の読書

1988年に千葉の高校教師、船橋学園女子高校（現・東葉高校）の林先生、大塚先生が提唱、実践した。当初中々受け入れられなかったが、「子ども読書年」あたりから爆発的に全国に広がった。高校での実施校は、まだ5割に達していないが、小学校、中学校では8割を超えている。先生は、子どもは本を読まないものとはきらめていたが、実際に始めて見ると、子どもたちが喜んで読書に夢中になっているのを目の当たりにして驚いた。

2. 子どもの読書推進会議 （公益社団法人読書推進運動協議会）

2000年の「子ども読書年」スタートしたのが、子どもの読書推進会議である。2000年から毎年各地で「絵本ワールド」を開催し、児童出協とJPIICとの共催でゴールデンウィークに「上野の森 親子ブックフェスタ」も続けられている。再販制度の弾力的運用の名の元に、割引販売も行われている。

3. ブックスター

「子ども読書年」をきっかけに大きな展開を見せたのが「ブックスター」である。現在全国の自治体の約

6割（1741）で実施されている。この自治体はHPに掲載されている。NPO法人を通さない独自のやり方で行う自治体もあるので、実態としてはもう少し多いと思われる。0歳児健診時に絵本をプレゼントする方法が一般的だが、2歳、3歳でもう一度プレゼントする「セカンドブック」を始めだした自治体も出てきた。ただ絵本を渡すだけではなく、読み聞かせの大切さや方法を伝えたり、地域とのつながりを紹介したり、子育て支援の要素も含んでいる。

4. 読み聞かせ運動 おはなし会

読み聞かせも随分以前から行われている。読み聞かせは1対1が原則であるから、基本的に家庭が中心となる。日本人の生活様式が、核家族化が進み、共働きが増え始めると、子育ての方法も変化せざるをえなかった。そこにメディアが関わってくるのであるが、それは後ほど取り上げる。

古くから保育園、幼稚園や地域の文庫活動の中で読み聞かせは行われてきたが、最近では、図書館や自治体の子育て支援センターなどのおはなし会も盛んである。ここ十数年ではおはなし会を定期的に催す書店

も多い。

また読み聞かせ運動が広がることで、読み聞かせやおはなし会をする人々を育成しようとする動きもJPIICを中心に増えている。ただ、子どもを楽しませるのは悪いことではないが、1対大勢の読み聞かせでは、子どもに受けることばかりを求めがちになってしまう。しつけや教育的な効果を狙っていないだろうか。絵本の世界の楽しみを家庭でも味わえるように促してほしい。全体的には「課題図書」や「推薦図書」などの「読ませる」から「読書の楽しさを知る」方向へ向っている感じがしている。

児童書版元と書店の乖離

1. 書店における児童書の位置づけ

書店にとって児童書はどのような位置づけになるのだろうか。あまりよい印象を持っていないのではないだろうか。絵本は形がバラバラで棚に収容しにくい。絵本は面陳しないとダメ。場所をとる割には単価が安い。高正味、買切りの版元の存在。再販制度があるにもかかわらず図書館や学校では入札が存在する。図書館には図書資料装備をしなくてはな

らない。

決まったサイクルがあるので、毎年同じような内容になり、マンネリ化が否めない。人気シリーズなどを除いては、新刊が売れるわけではなく、乳幼児が直接購入するのではなく、プレゼントとして買われることが多い。プレゼント包装もある。などなど手間がかかる上に、粗利が少ない。扱いづらい商品。

ロングセラーが中心であるがゆえに、ネット書店の利用率が高い。ブックオフも当初児童書の扱いは少なかったが、現在はかなり扱い量が増えている。シールブックや知育絵本の出版も始めた。親の意識も変わってきた。絵本も消耗品、中古でも構わない。リアル書店にとっては悩ましい問題である。

2. 児童書の特殊性

児童書の販売金額が1991年に1000億円に達したが、翌年には売り場面積は、書店全体の3%を切る状況であった。1996年に出版界がピークを迎えるのに対し、1991年から7年連続で児童書の売上が減少し、1998年には700億と低迷する。児童書は他のジャンルと全く違う動きをしている。メリットの少ない児童書売り場を

縮小しても、他のジャンルを置けば売れた時代でもあった。書店は児童書に期待せず、児童書版元も書店に期待しないという乖離した状態が続くことになる。ここ数年の状況を考えると、書店としても児童書を置かざるを得ない。児童書版元も置いてほしい。問題は置き方、どう置くかである。

どうする児童書棚

1. ロングセラーを押さえる

ロングセラーが基本であることは、今も昔も変わらない。ブックリストは有効に利用した方がよい。「ミリオンぶっく」(トーマン)や「いくつえほん」(日販)などの取次のリストも参考になる。各地域の図書館は、児童書のブックリストの制作に、ここ数年力を入れている。自治体のブックスタートの情報を得る。決まったものを渡しているのか、何冊から選べるようになっていたのか。NPO法人ブックスタートのHPに現在選ばれている30冊のリストは掲載されている。季節感を持たせることは必要だが、そんなに売れるわけではない。広げすぎ、積みすぎには注意。

児童書担当者は置いてほしい。棚作りは専門職でもある。岩波書店・こぐま社・童心社・福音館では1997年から「オアシスの会」を立ち上げ、ロングセラーを丁寧に並べている担当者とそのお店の責任者に感謝する会を設けている。

2. 赤ちゃん絵本、年齢別 おすすめ絵本、児童文庫の充実

赤ちゃん絵本のコーナーがわかりづらい書店棚が多い。キャラクター絵本などと混在している。一番需要が多いので、コーナーを設けるべき。ブックリストを利用しながら、スペースに合わせた年齢別おすすめ絵本のコーナーも必備。その店のおすすめを選んで、面陳を定期的に入れ替えてみるのもよいのでは。子どもが自分で買える児童文庫も置いてほしい。あまりにも点数が多いので、取次のリストを参考にする。

3. キャラクターグッズの扱い

この10年、児童書のキャラクターのグッズ化が急増している。例えば郵政。郵便局にディスプレイされたグッズのセットが置かれ結構好評。ブルーナーのグッズ化は、かなり以前から始められ、幅広く使用されて

いるが、絵本とは関係なく、独り歩きしている状態。版元としては、本との相乗効果を期待して、グッズが存在すればよいと思っているが、本を置かずに、グッズだけ並べるのでは意味がない。取次主導のお仕着せのものを並べるのではなく、客層を見極めて選んでほしい。センスが要求される。絵本とグッズをセットにしてプレゼント用に利用してもらうとか。

4. ディスプレイ

絵本の表紙にPOPをべったり貼るのは本末転倒。勿論、POPはおすすめ絵本をアピールするためには必要であるが、絵を隠さないように配慮がほしい。

安心できる児童書棚とは、ロングセラーがきちんと置いてあるということ。それをアピールするためのディスプレイ。表紙と裏表紙の利用。子どもたちはよく気付く。棚一本でも勝負できる。

本好きの子どもを増やすために 絵本の役割

1. 絵本にしかできないこと

絵本は、子どもとのコミュニケーションをとるための一つの手段。い

つしよに遊ぶこと、手遊び、指遊び、わらべ歌、素話など。その時に大切なものが、スキンシップ・アイコンタクト・肉声。絵本を読む時にもこの3つは欠かせない。

絵本にしかできないことは、絵を読むということ。文字を読めない、読めてもまだその理解が充分でない子どもはどうして絵本を読むのか。読んでもらったお話を耳で聞いて、絵という文字を読んでいく。そして主人公や主人公の友だちになって、ドキドキ、ハラハラしたり、うれしくなったり、悲しくなったりして、絵本の世界に入っていく。ところが動いている、成長している。主人公になれるということは、人の気持ちがかかる、痛みがわかることでもある。

子どもはいろんな力を駆使して本を読んでいる。想像力、創造力、記憶力。それがあるとき失われる。文字が読めるようになったとき。

子どもたちの絵本の読み方には、2つの特徴がある。一つは気に入った絵本を何度でも持つてくる。安心できるお話を安心できる場所で、安心できる声で聴きたい。もう一つは50年前、40年前の絵本を現在も読んでいる。時代は大きく変化している。どんなに時代が変わろうとも子ども

の中に変わらないものがある。子どものも普遍性。長く読み継がれる絵本の中にも、どんなに時代が変わっても多くの子どもに受け入れられる普遍性がある。その二つの普遍性が出会った時に、「も一度読んで」「も一度読んで」と持つてくる。

2. ことばの力

ことばの力が弱くなっていると言われて久しい。人間が一番最初に身に着けることばの力は、聞く力。おなかにいる赤ちゃんにも話しかける。胎児も6週間くらいで耳ができてくる。ことばとしては聞いていないが羊水を通して、音として聞いている。生まれたばかりの赤ちゃんにも、その子に向かって語りかける。それは人格を持ったことば。赤ちゃんはそれを全身で受け止めている。あるとき口を通してことばが溢れ出す。その聞く力が弱くなっている。聞く力が育たないと、話す力、読む力、書く力、理解する力も育たない。

それには以前から、メディアの影響がある指摘されてきた。テレビが普及しだした50年前から。私たちの生活の中に、光と音で作られた映像と音響が溢れ出した。不特定多数の人に向けられた人格を持たないことばである。メディアの進化は目覚

ましい。母親がスマホでネットショッピングしている横で、子どもがゲームをしたりDVDを見ている光景が当たり前になってきている。

コミュニケーションが取れない子どもが増えている。発達障害だけではなく、愛着障害も増えているとされている。そこに絵本が果たせる役割があるのではないだろうか。ことばの力が育てられないと、出版界の将来はないと言っても過言ではない。

3. 街の本屋の役割

大人にできることは、子どもに本を読ませるのではなく、本の世界の入口に立つてもらえるように努力することではないか。ブックスタートや朝読がその方向性を向いていることは、これから影響してくるかと思われる。一度本の楽しさを経験した子どもは、そのあとコミックやゲームにはまってしまうとしても、何かのきっかけで本の世界に戻ってくると信じている。

街の本屋は、子どもたちが、そして以前子どもであった人たちが、戻ってこれる場所であってほしい。



2018年いちばん売れた本!

漫画
君たちは
どう生きるか

210万部
突破!



羽賀 翔一・漫画
吉野 源三郎・原作
定価 本体1300円(税別)
ISBN 978-4-8387-2947-0



マガジンハウス

〒104-8003
東京都中央区銀座3-13-10

●受注センター ☎ 049-275-1811 / FAX: 0120-468-127
●書店様ホームページ <https://shoten.magazineworld.jp/>

●メール ✉ chumon@magazine.co.jp
●S-BOOK.NETでもご注文いただけます。

児童書分科会の報告及び書店大商談会の 現状と今後について

第九回書店大商談会実行委員長 矢幡 秀治

平成30年10月1日（月） 10時30分
～16時30分 一橋大学一橋講堂・中会議室にて第九回書店大商談会児童書分科会を開催いたしました。当日の朝は、前夜の台風24号の東京横断により交通機関が麻痺している中でしたが、出展社の方々には朝早くから準備に駆けつけていただき、開催時間の10時30分にはきっちり開始することができました。大変感謝しております。また、1日（月）という

も多い56社という出展社、そして当日の盛況ぶりを考えるとよい商談会ができたと思っております。ただ、少し時期が遅いなどのご意見をいただきましたので、次回以降反映させていきたいと考えています。

今回の第九回書店大商談会の本会は平成31年2月6日（水）東京ドームプリズムホールにて開催いたします。前回までは10月頃に開催していましたが、大阪、札幌、福岡、名古屋といった各地で商談会が開催されるようになり、時期も重なっていることから、東京は2月開催という大きな開催時期の移動を試みました。新年度に向けた商材の商談も期待しており、例年とは異なった雰囲気の中で開催される商談会への、多くの書店の皆様のご参加をお待ちしています。とはいっても、前回に比べ

出展社数が減ることは事実となっており、出展社の事情、開催時期の変更が要因の一つであると考えられますが、ここ数回にわたる書店来場者数の減少が大きな要因ではないかと考えざるを得ません。これは、書店数の減少、各店舗の人員削減等の影

響も大きいことです。また、東京の書店には出版社の方々も行きやすく、書店はわざわざ商談会に行かなくてもよいという考えが、年々強まっています。商談会での勉強会やイベントもマンネリ化しているのかもしれない。こういった中で実行委員会では、今回そして今後の大商談会に向けて、書店の皆様喜んでいただくための企画をいろいろ練っています。開催時期の変更、コミックや児童書の分科会の開催などが今までの実績です。今後もこれだけ多くの出展社、書店等が一堂に会する大商談会がなくなるといことはあり

ません。個人的な見解となりますが、ひとつの大きなお祭りであるということと、「商談が基本」であるという両面から、いくら忙しくても行かざるを得ない大商談会にしたいと思っています。

皆様にはご指導、ご鞭撻いただくとともに、今後の大商談会へのご参加をお願いします。

児童書分科会 来場者数

	人数	備考
書店	170	
出展社	164	56社56ブース
販売会社	53	
報道	11	
その他	13	来年出展検討社など
スタッフ	4	東京書店組合・JPIC
計	415	

（表1）商談成立金額：613件、15,455,591円

双葉文庫 時代小説 人気シリーズ最新刊!



本体611円＋税
978-4-575-06918-3

愚策!!
ない米を
持つてこいとは
ご老中さま
無体なり!

最新刊
第7巻
好評発売中!

千野隆司

おれは一万石
定信の触

書き下ろし長編時代小説

「おれは一万石」シリーズ既刊本
第1巻～第6巻 好評発売中!

双葉社 <http://www.futabasha.co.jp/>

第28回 神保町ブックフェスティバル

日時 平成30年10月27日・28日
会場 千代田区神田神保町 すずらん通り、さくら通り、
神保町三井ビル公開空地

神保町ブックフェスティバル実行委員会

実行委員長 大橋 信夫

『神保町ブックフェスティバル』は毎年秋の読書週間に開催される本のお祭りです。平成3年に第1回が開催され、平成30年10月27・28日の開催で28回目を迎えることができました。

回を重ねるごとに参加出版社のワゴン数も増え、第28回では過去最大の258台、動員数は2日間で13万人（推定）となりました。

第1回開催当時すでに神田古書店連盟主催の『神田古本まつり』が開催されておりましたが、神田神保町近辺の出版社、取次、書店の集まりである「神田本の音色の会」の発案で読者への謝恩として新たにこのイベントが加わりました。

参加出版社各社を始め、千代田区、地元商店街・消防・地域の学校などにお力添えをいただいて、毎年開催を続けることができました。

本のイベントを毎年重ねることに、神田神保町が本の街であるイメージがさらに定着にも寄与しました。

当初すずらん通りのみであった会場は、その後、さくら通りへ広がり、小学館・集英社前ひろばで始まった「こどもの本ひろば」は、近年は三井ビル公開空地が開催場所となりました。どれも、地元のお力添えがあったことです。

お祭りの一番の目玉は、ワゴン参加出版社の「本の得々市お楽しみワゴンセール」であり、出版社在庫僅少本、著者サイン本、汚損本になったものは謝恩価格本としてお得な価格で購入ができます。

「こどもの本ひろば」では、日本児童図書出版協会のご協力で絵本・児童書のワゴンセール、おはなし会、音楽会など多くのイベントが催されます。第28回では、「にほん史探偵コナン・シールラリー」が開催されました。

地元学校の協力は、お茶の水小学校、神田一橋中学校、明治大学、共

立女子大学等に、毎年参加協力頂いています。書店では、作家の講演会・サイン会などが開催され、秋の恒例の本の一大イベントとなっています。また、「本の街・神保町を元気にする会」主催による「神保町寄席・於文化産業信用組合貸会議室」は今回で13回目となりました。

同時期には「神田古本まつり」を始め「神田スポーツ祭り」「神田カラーランプリ」が周辺地域で開催され、地域貢献の一端を確実に担っております。

東京都書店商業組合・青年部、千代田支部加盟書店の皆様方には、ワゴン参加、本部実行委員としての活躍、広報の協力、買い物袋の斡旋などご協力頂きました。

この場を借りまして、御礼申し上げます。

各出版社、多くの書店関連団体の方々に支えられて運営して来ました。今後も関係皆様のお力添えをいただき、更なる盛り上がりを目指す所存です。何卒よろしくお願いいたします。



ビジネスマンの毎日に

ダイヤモンド社
の雑誌

www.diamond.co.jp

〒150-8409 東京都渋谷区神宮前6-12-17

週刊 **ダイヤモンド**

●毎週月曜日発売

ダイヤモンド・ザイ
Zai

●毎月21日発売

Harvard Business Review

DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー

●毎月10日発売

CAR and DRIVER

●毎月26日発売

TV station digital

●隔週水曜日発売

研修旅行の二コマ

10月21・22日
江東・江戸川支部 佐藤孝良

福島の高湯温泉ですか？鄙びていい宿はありませんよ。飯坂温泉はどうです？旅行会社との打合せはここから始まった。開湯四百年の歴史を持つ高湯温泉には「一切の鳴物を禁ず」というしきたりがあるそうだ。派手さやきらびやかさは無いが今も脈々と続いているということはお湯が良いということでは、そう考え一も二もなく高湯に決めた。

着いてみれば迎には硫黄の匂いが立ち込め、宿以外何も無く、今まで訪れたことの無い雰囲気になつたと期待がないまぜになつた。

観光宿というよりは湯治場寄りか。

草津程ではないが強い湯で露天風呂は足元を照らす灯りだけの洗い場も無い簡素な造り。

お湯を楽しんで欲しいという声が聞こえてきそうだった。

一緒に訪れた仲間の本音は知らないが「ここは当り」と幹事である私は断定した。場所柄か馬鹿騒ぎする客も無く、しんとした佇まいのせいもあって同室の4人共早めに就寝したつぷりと寝た。



宿に着くまでに有名な観光地をいくつか廻ったがどこも相当な人出で景色景観より「外国人だらけだなあ」と思うばかり。観光地にとっては良いことなのだろうけど旅情や趣の無さに少し白けている私がいいた。宮城松島は震災の被害が少なかったと運転手が教えてくれた。雲一つない青空の下風いだ海を周遊船はゆつくりと走る。大小様々な奇岩や小島を紹介しつつ塩釜港へ向かう。陽も傾き周囲がオレンジに染まる頃港に近づ

く。港には大小の貨物船やタゲボート等私の好きな働く船が繋留されていた。海保の船らしきものも見えた。個人的に最も気持ちの上がつた瞬間だ。夕風の港、遺跡のようにそびえるクレイン群。なんと美しいことか。松島ではなく塩釜港に長居したかった。仲間からは苦情が出ると思うけど。帰京した東京駅の雑踏の中で、いつの間にか白けていた気分は消え旅情感到満たされていたことに気づいた。

支部活動

十月某日、梅木支部長以下総勢12名の一行はお馴染みの栄楽観光のバスで三軒茶屋を定刻八時に出発。軽食おつまみ飲み物（殆どビール）が配られいつもの盛り上がりを見せながら信州へ旅立ちです。

昼食は十割そばを食し雲海で有名な北志賀高原竜王SORAテラスを目指します。このロープウェイ

イは世界最大級でなんと166人乗りとのこと。箱がでかい!!山頂1770mまで一気に上りそこからのパノラ

マは絶景のはずでしたが途中から雲海に突入しホワイトアウト☆残念!ホテルに行く道すがらびつくりする光景が目に入りました。どこかの終着の駅に昔懐かしい



1では名物のキャベツサラダ（まるで巨大なソフトクリーム）香ばしいポテトフライ、ソーセージ&地ビールで乾杯。どれも美味です。最後は旧軽に立ち寄りしました。学生の頃テニスの合宿は軽井沢。相変わらず旧軽通りは賑わっていて少し裏手に回ると皇太子ロマンスの軽井沢会テニスクラブ。和菓子屋ちもと本店隣りのさびれたジャム屋で杏子とこけもをお土産にしました。

無事新宿に帰還し解散です。飲み足りないメンバーが夜の街に消えていきます。

のんびり信州 研修旅行

10月14・15日
目黒・世田谷支部 新倉修

翌日は地獄谷温泉。猿が露天風呂に入ることで知られる野猿公苑。ところが猿は出勤しておらずなんとクローズ！満満滝展望台で遠くの滝を見ます。小さく見えるのですがゴリという音が轟き心が洗われます。湖面が鏡のような木戸池は少し装い始めた木々を清冽に映してる。真つ黒な物凄くでかい鯉。カルガモは草を無心に食べています。一眼レフを構えた愛好家たちの三脚がひしめいていました。次は洪峠ロマンスリフトで2km越えの横手山山頂を目指します。山頂は4℃。久々のペアリフトで私は前支部長の越石さんと共に高原の冷たい空気に白い煙を気持ちよく吐き出したのでありました。嬌恋ブルワリ

青年部の活動

青年部の活動と未来

東京都書店商業組合青年部会長 田中 紀光

私が青年部の会長に就任しもうすぐ一年半が経とうとしています。現在は、会長として調整役に徹しています。それぞれの委員会は委員長が力を発揮し、日々誠実かつ着実に活動しています。青年部の四つの委員会（店頭活性化委員会、NET店頭連動委員会、書店再生委員会、庶務委員会）の現在の活動状況や課題について報告します。

店頭活性化委員会は、書店が自ら主体的に売る商品か、通常の業務の中で店頭に並べていて売れる商品かを判断し、企画を通じて書店が各店の努力や取り組みの中で売れたものに関しましては売れた冊数分を版元から報奨金という形で頂いています。現在、数年継続しているものが3社（マキノ出版、樫出版、Jリサーチ出版）、新企画は彩図社、二見書房、PHP研究所等があり、企画の商品選定などは版元と意見交換し、極力売りやすい商品を選んでいきます。実用書や高額本等はなかなか個店の努力から結果を出すのは大変ですが、文芸文庫などは対象商品を自ら読みオリジナルのPOPを付けるなどの努力を

すれば、当店のような25坪の一般的な町の書店でも約4か月の期間内で30冊〜80冊を売り上げる結果が出せます。課題は、書店数の減少等から企画への参加店数が少なく、町の書店の集合体としての力をアピールする事が継続してできません。現在の報奨企画自体のあり方も、次のステージが求められているのかもしれない。

NET店頭連動委員会は、青年部のHPに関連したものが主な活動です。現在、HPをスマートフォンに対応したアプリにするなど読書人、JP等関係者のお力を借りながら進めています。町の書店の在庫情報がありリアルタイムでわかる事は読者自身も求めています。すべての書店の在庫情報が見られるようになるまでは、いろいろな問題をクリアしないとい



けません。このアプリ化が順調に進めば町の書店にとってネット上の大きなインフラとなり大きく業界が好転する可能性を強く感じています。

書店再生委員会は、昨年8月より小学館の週刊ポスト、女性セブンに対して返品が発生しない定期分に関して販売手数料がいただける事になっています。現在も小学館とは対象商品の売り上げを伸ばす方策について話し合いを続けており、今後も契約期間の延長、対象商品を拡大していただけるように取り組んでいく事が町の書店が一丸となるチャンスだとも考えています。

庶務委員会は、青年部の継続事業である神保町ブックフェスティバル、リクリエーション、新年会、総会等の事務を管理する縁の下力もちの委員会で花形ではないですが本来は一番大切で大変な仕事です。近況として残念ながらリクリエーション（9/30）は台風のため中止、神保町ブックフェスティバル（10/27、28）は盛況の中無事終了しました。また、かねてより青年部の大きな課題であり、大変心配していた青年部の人員不足については皆様のご支援のおかげもあり今期は2名の新たな若手メンバー（八王子支部、黒田書店黒田英揮さん、港・渋谷支部、山

陽堂書店萬納嶺さん）も加わり、店舗を閉める書店が目立つ中、青年部の活動に協力していただいています。青年部にとっては大変喜ばしいことです。

最後に、青年部の未来についてですが、今の出版業界や組合という組織の中では何をやるにも難しい事だらけです。しかし、難しい難しさと嘆いていても何も現状は変わりません。どうしたいかから逆算して行動すれば結果は必ず後からついてくると信じています。最近では、行動すればした分だけ町の書店の味方が増えている実感があります。必ず結果は出せると思います。現状では会長としての私の力不足もあり、青年部の活動として特質した成果が上げられず私自身焦りの気持ちもあります。が、青年部の活動を一緒にやっている仲間を信じ、組合にとって有益な成果を出せるよう一生懸命努力します。引き続き青年部の活動に対してご理解、ご協力の程よろしく願います。



理事会 議事録



平成30年7月理事会

7月3日(火) 14時30分より15時55分

報告事項

船坂理事長より「出版物への軽減税率適用に関する陳情」について協力してもらいたい旨報告があった。

一、事業・増売委員会

「報告」平成30年度読者謝恩図書カードの発行・販売は、昨年同様行う予定。

「要請」2018年度「心の中のこる子ども本秋・冬セール」について、希望者は申し込み願いたい。

「承認」河出書房新社「サビエンス全史」を特別増売商品とし、店舗のある組合員に3冊ずつ配本する。

「承認」二見書房「剣客大名 柳生俊平」を増売商品とする。

「要請」平成30年度 読書推進活動補助費について、希望する支部があれば申し込み願いたい。

二、再販・発売日・取引改善委員会

「報告」(6/16) 日経記事「本を少しでも安く買うには」が提示され、記事の内容について説明があった。

その他、総務・財務委員会、組織委

員会、指導・調査委員会、厚生・倫理委員会、共同受注・デジタル委員会から諸報告があった。

出席理事21名、理事代理4名、監事2名

平成30年8月休会

平成30年9月理事会

9月4日(火) 14時30分より17時10分

報告事項

以下の日書連報告があった。

① 船坂理事長から書店間で万引情報を共有する「渋谷プロジェクト」の進捗状況について報告があった。

② 船坂理事長から消費税軽減税率適用について(7/17) 東京都選出の自民党税調議員への陳情報告があった。

③ 船坂理事長から11月1日を「本の日」として全国の書店でキャンペーンを展開する(7/30)「本の日」実行委員会発足について説明があった。

次の青年部報告があり、了承した。

「承認」田中(久) 青年部副会長から、青年部HPのアプリ開発について東京組合の了解を得たいとして提案があり、理事会はこれを了承した。

次の庶務報告があった。

東京都最低賃金(地域別最低賃金)は、平成30年10月1日から27円引き上げで、時給額985円に改正される。

一、総務・財務委員会

「承認」2019年「築地本マルシェ」で組合後援名義使用について。なお、その他協力できる具体的な内容については当該支部が協議する。

「承認」平成31年東京組合新年懇親会について、現在の事務局体制から対応が難しいこと。また、年々組合員の出席数も少なくなっている状況等を含めて、正副理事長会で協議した結果、開催の中止はやむを得ないと判断に至った為、平成31年東京組合新年懇親会は中止する。

「承認」第25回参議院議員通常選挙に公明党を推薦する。なお、他の政党から依頼があった場合も同様とする。

二、事業・増売委員会

「報告」平成30年度読者謝恩図書カードに(9/3) 現在、15社15口の協賛を得た。

「報告」平成30年度出版社広告入りポリ袋の受注枚数は(9/3) 現在352,000枚となっている。

「要請」平成31年版神宮館「暦」は申し込み受付中。本体価格35,000円以上の注文は、送料無料で神宮館から直送となるので、希望者は申し込み願いたい。

「承認」NHK出版「からだのための食材大全」を、特別増売商品とする。

「承認」河出書房新社「日本200年地図」他を、特別増売商品とする。

「承認」日本経済新聞出版社「魔法のラーメン発明物語」を、特別増売商品とする。

する。

「承認」里文出版「HAPPYふくろう」を増売商品とする。

「報告」平成30年度読書週間「書店くじ」の申し込み枚数は92,000枚、前年対比100.5%であった。

「要請」第九回書店大商談会「児童書分科会」が、(10/1) 開催される。奮って参加してほしい。

「報告」第2回「築地本マルシェ」は平成31年2月22日(金)、23日(土)に開催される。当該地区の中央支部が引き受ける方向で、支部会で協議することになった。

三、指導・調査委員会

「報告」平成30年度書店経営研修会は、こぐま社前社長・吉井康文氏を講師に、11月15日(木) 15時から開催を予定している。

「報告」(8/1) 開催の第9回「万引き追放SUMMERキャンペーン」に組合から2名が出席した。

四、共同受注・デジタル委員会

「報告」BOOKSMARTは、解約日が2018年7月31日となっており、7月分手数料は、11月に入金となる。

五、再販・発売日・取引改善委員会

「報告」(8/22) 上野の森親子ブックフェスタ運営委員会と意見交換した。

「報告」(株)富士山マガジンサービスは、(9/3)「(11/30)雑誌の定期購読を割安で利用できる「I Love Magazines」キャンペーン2018」を開催しているので希望者は利用願いたい。

その他、組織委員会、厚生・倫理委員会他から諸報告があった。

出席理事24名、理事代理3名、監事1名

平成30年10月理事会

10月2日(火) 14時30分より17時5分

報告事項

以下の日書連報告があった。

①船坂理事長から11月1日「本の日」にあたり出版界は総額500万円の図書カードが当たるキャンペーンを展開する旨報告があった。

②船坂理事長から消費税軽減税率適用問題については、各県組合が手分けして自民党税調議員へ陳情を行っているとの報告があった。

③柴崎副理事長から「書店環境改善実務者会議」は、今まで3回開催しており、この中で、出版社側からの方策案として①雑誌コード「10コード」を活用した販売方策②買切品の出荷時の正味と返品時の正味を変える方策③文庫小ロット(800冊以上)を印刷専売品とする方策等が検討されているとの説明があった。

一、総務・財務委員会

「承認」第28回神保町ブックフェスティバルへ出品するワゴンは合計2台で、1台につき10,000円を負担する。

二、事業・増売委員会

「報告」平成30年度読者謝恩図書カード広告協賛出版社は18社18口で、次の通りである。暮しの手帖社、日本図書普及、光文社、集英社、講談社、小学館(2口)、日本経済新聞出版社(0・5口)、東洋経済新報社(0・5口)、河出書房新社、マガジンハウス、ダイヤモンド社、KADOKAWA、NHK出版、日経BP社、朝日新聞出版、聖教新聞社、第三文明社、潮出版社

「承認」小学館「学習まんが 世界の歴史 全17巻」を増売商品とする。

「承認」祥伝社「羽州ぼろ鷹組シリーズ」、「産声が消えていく」を特別増売商品とする。

「承認」河出書房新社「源氏物語 上中」を特別増売商品とする。

「報告」第2回「築地本マルシェ」については、当該地区の中央支部が引き受けるか否かを次回支部会で決定する。

三、指導・調査委員会

「報告」プロジェクトを使って東京組合HPの完成前の状況を発表した。

四、再販・発売日・取引改善委員会

「承認」祝日と月曜日が重なり雑誌発売日が変更される場合、配達に支障が生じていることに関しては、雑協と取協に善処方を申し入れる。

その他、組織委員会、厚生・倫理委員会、共同受注・デジタル委員会から諸報告があった。

出席理事19名、理事代理6名、監事1名

平成30年11月理事会

11月6日(火) 14時30分より16時40分

報告事項

NET21高畑氏以下3名から「SPS(ストックブック・プライオリティーセール)後援のお願い」に基づき説明があり、組合の事業・増売委員会と共同で実施することについて承認した。

庶務報告

第28回神保町ブックフェスティバルは、10/27(土)〜10/28(日)の2日間実施した。出版物の売上金額については、集計の結果6,500万円、来場者数約13万人との報告があった。

また、万防機構から、高齢者万引防止啓発ポスターの掲出方について協力要請があった。

一、組織委員会

「報告」新規加入 目黒区上目黒3-7-6

(株)住吉書房中目黒ブックセンター。

二、事業・増売委員会

「承認」日経BP社「医師に運動しなさい」と言われたら最初に読む本」「マンガで読む 宝くじで1億円当たった人の末路」「マンガでわかる 酒好き医師が教える最高の飲み方」を増売商品とする。

「承認」講談社「春のマンガ祭り」を増売企画とする。

「承認」PHP研究所「鯖猫長屋ふしぎ

草紙」を増売企画とする。

「報告」第2回「築地本マルシェ」については、中央支部が販売協力を決定した。

三、指導・調査委員会

「承認」東京組合HPについて、(11/12)最終的に内容確認を行い、(12/4)までにアップする。

四、再販・発売日・取引改善委員会

「報告」週刊誌の発売日変更について、(10/31)取協雑誌進行担当者と話し合いを行った。発売日設定は個々の出版社が行っているとの説明を受けた。

その他、総務・財務委員会、厚生・倫理委員会、共同受注・デジタル委員会他から諸報告があった。

出席理事23名、理事代理3名、監事0名

平成30年12月理事会

12月4日(火) 14時30分より17時07分

一、組織委員会

「報告」新規加入

北区赤羽2-28-8 Timber HouseLF(有)ケイ・ツー 子どもの本青猫書房

二、事業・増売委員会

「要請」平成30年度読者謝恩図書カードの販売を11/29(木)より開始したので積極的に販売願いたい。

「承認」潮出版社「金栗四三 消えたオリンピック走者」及び「嘉納治五郎 オリンピックを日本に呼んだ国際人」

は特別増売商品として店舗のある組合加盟店に5冊ずつ配本する。

「承認」朝日新聞出版「週刊朝日ムック歴史道 Reishi Dou」他を増売商品とする。

「承認」東洋経済新報社「就職四季報」他を増売商品とする。

「要請」「SPS」企画説明会を平成31年1月24日（木）16時より（有）NET21と共同で開催する。積極的に参加してほしい。

「報告」第2回「築地本マルシェ」は、同実行委員会が中央支部と打ち合わせ等を行っていたが、11月末に諸般の事情により中止することになった。

三、指導・調査委員会

「承認」東京組合HPについて、最終的に内容確認を行った。ドメインは1法人一つの原則から、親会は青年部が使用しているドメイン www.tokyo-shoten.or.jp を譲り受け、青年部はサブドメイン seinenbu.tokyo-shoten.or.jp とすることになった。なお、青年部の承認も必要な為、公開は承認が得られた後とする。

四、日書連「試案」の検討について

矢幡常務理事から、日書連の実務者会議WGは（11/26）開催された第4回実務者会議に、「出版業界3者『実務者会議』への試案」を提案したとして内容説明があった。

この試案に基づき種々意見の交換が行われた。その結果は、矢幡常務理事が（12/12）日書連の指導教育拡大委

員会に報告することになった。なお、「試案」は意見交換後回収した。

その他、再販・発売日・取引改善委員会、厚生・倫理委員会、共同受注・デジタル委員会から諸報告があった。出席理事24名、理事代理4名、監事1名

委員会発信



☆厚生委員会

☆互助会給付内容は左記の通りです。
（平成30年7月3日理事会より12月4日理事会迄）

給付区分	死亡	傷病	慶祝
地区	台東区	渋谷区	練馬区
店名	佐々木書	谷アド書	ヤマ書
氏名	裏配偶者	功名義人	功名義人
備考			

☆組織委員会

☆脱退者は左記の通りです。
（平成30年7月3日理事会より12月4日理事会迄）

区分	新規加入	退会	脱退
地区	北区	練馬区	立川市
店名	（南）ケイ・ツィ子どもの本 青猫書房	（株）住吉書房 中目黒ブックセンター	（株）東武ブックス 西新井店
氏名	岩瀬恵子	和田成雄	比留間安夫

編集室



2008年のリーマンショックからはや10年が過ぎ世界の経済・社会は急激なスピードで変化している。人々は将来を予見できない不安と恐怖で否定的な意見を言う人々が多くなってきた。

世界の株価も大きく変貌している。アメリカでは、2008年の1位〜5位は、エクソンモービル、ペトロチャイナ、GE、チャイナモバイル、中国工商银行の順。2018年はG、A、F、AのIT企業が存在感を示している。日本はというと、2008年は、トヨタ、三菱UFJファイナンシャルグループ、NTTドコモ、NTT、三井住友ファイナンシャルグループの順。2018年は、トヨタ、NTT、NTTドコモ、ソフトバンクグループ、三菱ファイナンシャルグループの順。世界は構造転換で大きく変化しているが、日本は10年前とほとんど変わらず、経済は好調を維持しているが中小企業は苦戦を強いられている。出版業界も、この渦の中に巻き込まれ書店の減少が続く、対策を施しているが追い付かないのが現状である。しかし、最近のメディアでは出版社、書店の特集記事の掲載が多くなっていると感じる。本の楽しさを伝えている新聞記事からは、無人書店、文庫本のヒミツ、ポップは赤と黒、本の仕事場、高校生ビブリオバトル大会、神

保町ブックフェスティバル、大商談会等のタイトルで側面からの応援をよく目にする。これらの記事、催事を前向きに捉え、自店向きに取り込みお客様に情報発信をして書店の魅力を伝えなければいけない。書店は、お客様はきてくれるものだと勘違いをしている。こちらから発信をしなければ、お客様は振り向いてくれない。書籍、雑誌を並べているだけでは、魅力を感じず本を主体としたコミュニケーションを求めているのではないか。とにかく、自店を信じお客様を信じ日々の業務を考え愚直に実行する事が大事だと思う。決断と実行をする店は生き残り、決断と実行をしない店はそれなりに！

先日妻と二人で軽井沢にドライブに出かけました。車内でのまったりとした空気、対人との煩わしさを考えず風景だけを目で受け留め自然を感じる一日を楽しみました。残念ながら紅葉はいまいちでした。

吉岡記

企画・編集・指導・調査委員会	担当副理事長 小林洋
委員長	渡部満
編集者	牛房邦夫
発行	東京都書店商業組合
発	東京都千代田区神田駿河台一―二
制作・印刷	ミツバ総合印刷株式会社
	東京都千代田区神田保町一―二五八



二人がいる

図書室には、

いつも謎が

持ち込まれる――

図書委員の男子高校生コンビが織りなす、
爽やかでほんのりビターな“図書室ミステリ”!

本と鍵の 季節

米澤穂信

イラスト／丹地陽子
好評発売中●本体1,400円



堀川次郎は、他人から頼み事をされやすい、高校二年の図書委員。利用者の少ない図書室で共に当番を務めるのは、快活で顔がよく、ほどよく皮肉屋の同級生・松倉詩門だ。ある日、図書委員を引退した先輩が訪ねてくる。亡き祖父が遺した開かずの金庫、その鍵の番号を探り当ててほしいというが…「913」。さらに、題名不明の本、宝の行方など、数々の謎に挑む全6編。

〈米澤穂信の好評既刊〉……………
追想五断章 集英社文庫●本体495円
【電子書籍版も配信中】



←特設サイトはこちらから!
<http://renzaburo.jp/yonezawa/>

「学習雑誌」が
さらに
パワーアップ!

小学一年生



大増売運動

2019

お申込みの方全員にプレゼント

定期購読特典

ドラえもん

ほし そら

星空

えんぴつ

けず

削り

えんぴつを削ると
LEDライトが
ピカツと光る!

2019年度小一モデル
桃井 杏奈ちゃん

2019年度小一モデル
岡坂 幸蔵くん



ぴっか
ぴか★

めざましどけい

学習タイマーつき

4月号
特別ふるく

LED
ライトが
ピカピカ
光る!

10分
タイマー
スタート!



あさだよ!
おきておきて!

あと3分
がんばれ、
がんばれ!

あと1分
ファイト!



連載、よみものは
人気番組とコラボ!

『チコちゃんに
叱られる』
× 読者参加型
まんが



シリーズ掲載

『コングラガっち』のユーフラテス
「考える力」を育むよみもの